

「試練が続いても祝福される。」 出エジプト記1章5節～14節

赤ちゃんの唯一の表現方法は、泣くことです。母親を含め周囲の者は、その泣き声に応じて、オシッコ、おっぱい、その他を察して対応します。成長して言葉が話せるようになって、子供は泣きます。それほど自己表現がうまくないと、大人の価値観を理解できないので、泣くしかないのです。泣くことができない子は、おります。大人は泣かないで育つ子を喜びますが、泣くことを怒り罰したりすると泣かなくなりません。自己表現や要求を出せない子の表情は、苦しそう、辛そう、そして嫌な顔になっていきます。

そのような子供達を見ていて、神も私たちの泣き声や苦しみを察して取り計らってくださるのを感じます。ところが、人間もいじけて来ると悲しみ苦しみを外に出さなくなりません。そして、人間の価値観に沿って、我慢するのが偉い、立派だと思ってしまう。民族性もあります。日本人は喜怒哀楽の表現が下手で、外面を装う特徴があります。

外国人には、そのような日本人を理解することが難しく、また誤解されることもあります。日本人は、察することができない人々を嫌うことが多いのですが、察するということは、その人自身の経験や教育・慣習によることなので、日本人同士でも誤解が多くなっています。

「イスラエルの子らは重い労働にうめき、泣き叫んだ。重い労働による彼らの叫びは神に届いた。神は彼らの嘆きを聞き、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。神はイスラエルの子らをご覧になった。神は彼らをみこころに留められた。」(出エ2・23-25)。

私たちは、神に向かって叫び、神の前で泣くということ率直になし、神に助けを求めることをしっかりと身に付けなければなりません。我慢が身に付いてしまった人は、神が助けてくれることを信じることを捨ててしまったのです。日本には、それを美德と信じ、また教えることがあります。我慢しても解決するわけではありません。我慢は、聖書が教える忍耐とは全く異なるものです。「苦難が忍耐を生みだし、忍耐が練られた品性を生みだし、練られた品性が希望を生み出す」(ローマ5・3-4)のは、「神の愛が私たちの心に注がれているからです。」(5・5)。

試練や苦難、災害や事故、怪我や病氣、誰にでも起こりうることで、しかし、信仰者は、そこにあっても神が解決して下さる、良きように導いてくださると信じるのです。そして、「増えて非常に強くなつた。こうしてその地は彼らで満ちた。」(2)という祝福を得るのです。しかし、そうすると、敵は「彼らを賢く取り扱おう。」(10)として、私たちを巧妙に苦しめるのです。

「しかし、苦しめれば苦しめるほど、この民はますます増え広がったので、人々はイスラエルの子らに恐怖を抱くようになった。」(12)。信仰者への迫害や攻撃は、神が守ってくださるので無駄です。ところが、多くの場合、信者自身が、神の守りを信じないで世と妥協するのです。

マリヤ・クリニックは、新型コロナウイルスに対するワクチンの無効性・危険性を訴えました。ワクチンを接種しないということでの他の医療機関に移った人もおりましたが、結局のところ、多くの人が万全なコロナ対策をしているマリヤ・クリニックに集まりました。院長の診察の優秀さもあって、評判も高まっています。(例)ヨーゼフも、営業も宣伝もしていないのに患者さんから信頼を受け続けて売り上げは落ちていません。当教会も、新型コロナウイルスでも通常の礼拝を続けて教勢は伸び、献金も増えています。他方、残念ながら、コロナ感染を恐れて礼拝を縮小したり、オンラインだけにした教会は、ダメージを受けています。

今日の説教題は「試練が続いても祝福される。」です。「わたしの義人は信仰によって生きる。もし恐れ退くなら、わたしの心は彼を喜ばない。」(ヘブル10・38)とあるように、「恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者」(同39)である必要があるのです。

恐れる人々、不信仰な人々は、攻撃的になります。世の中の騒動を見ればわかります。行政、会社、組織、個人に対して、批判や攻撃に夢中になっています。私たちは、そのようなものを恐れてはいけません。活動を縮小した教会では、感染を恐れた信者の意見が通ったようです。祈らない人々、不信仰な人々は、困難な時にその偽りが現れます。

5節からのヘブル人の助産婦は「神を恐れ」(1・17)たので、王の命令にも従わずに、ヘブル人の男の子を生かしました。脅されても、信仰に生きて勇気をもって働いた「助産婦たちは神を恐れたので、神は彼女たちの家を栄えさせた。」(1・21)。

私も妻も、教会員もコロナに感染しました。むしろ、対策を十分に行い、感染したら万全な措置を取ります。感染者への支援も行いました。支障を受けた人はおらず、教会は却って強くなりました。恐れて行動を縮小し、隠れて過ごしてはいけません。

終末に災害や飢饉、戦争や社会の崩壊が続くのは、私たちの真実が現れる為の神からの試練のような気がします。恐れ退く人は、滅びるので

「私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。私の助けは、天地を造られた主から来る。」(詩篇121・1-2)

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

【新改訳 2017】

出 1:5 ヤコブの腰から生まれ出た者の総数は七十名であった。ヨセフはすでにエジプトにいた。

1:6 それから、ヨセフもその兄弟たちも、またその時代の人々もみな死んだ。

1:7 イスラエルの子らは多くの子を生んで、群れ広がり、増えて非常に強くなった。こうしてその地は彼らで満ちた。

1:8 やがて、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こった。

1:9 彼は民に言った。「見よ。イスラエルの民はわれわれよりも多く、また強い。

1:10 さあ、彼らを賢く取り扱おう。彼らが多くなり、いざ戦いというときに敵側についてわれわれと戦い、この地から出て行くことがないように。」

1:11 そこで、彼らを重い労役で苦しめようと、彼らの上に役務の監督を任命した。また、ファラオのために倉庫の町ピトムとラメセスを建てた。

1:12 しかし、苦しめれば苦しめるほど、この民はますます増え広がったので、人々はイスラエルの子らに恐怖を抱くようになった。

1:13 それでエジプト人は、イスラエルの子らに過酷な労働を課し、

1:14 漆喰やれんが作りの激しい労働や、畑のあらゆる労働など、彼らに課す過酷なすべての労働で、彼らの生活を苦しいものにした。

【NKJV】

Exo 1:5 All those who were descendants of Jacob were seventy persons (for Joseph was in Egypt already).

1:6 And Joseph died, all his brothers, and all that generation.

1:7 But the children of Israel were fruitful and increased abundantly, multiplied and grew exceedingly mighty; and the land was filled with them.

1:8 Now there arose a new king over Egypt, who did not know Joseph.

1:9 And he said to his people, "Look, the people of the children of Israel are more and mightier than we;

1:10 "come, let us deal shrewdly with them, lest they multiply, and it happen, in the event of war, that they also join our enemies and fight against us, and so go up out of the land."

1:11 Therefore they set taskmasters over them to afflict them with their burdens. And they built for Pharaoh supply cities, Pithom and Raamses.

1:12 But the more they afflicted them, the more they multiplied and grew. And they were in dread of the children of Israel.

1:13 So the Egyptians made the children of Israel serve with rigor.

1:14 And they made their lives bitter with hard bondage-in mortar, in brick, and in all manner of service in the field. All their service in which they made them serve was with rigor.